

これからの子育てについて ～男女の価値観の違いから考える～

メンバー：有村・藤村・小笠原

なぜこのテーマ？

子育て真っ只中の私たち。ママ友の中には仕事をしながら子育てをしている人が多くなってきている感じがします。

街にはベビーカーを押したり、赤ちゃんを抱っこして歩く父親の姿をよくみかけます。また、小学校や地域などの行事に参加するお父さんを見かけることも増えてきています。

父親たち・母親たちは、どのように育児について考えているのか？私たちが暮らす中央区の子育て事情を調べてみることにしました。

これまでの「子育て」

- ・子育てにおける男性の存在…「女性のサポート役」「最後に頼りになる人」というイメージ

変わりつつある男性の「子育て」

- ・子育て＝女性、仕事＝男性、という考え方⇒少しずつ変わってきている

【注目される「父親」】

イクメンの定義

- ①「育児を楽しめるカッコいい男のことである」
- ②「子どもたちを広く多様な世界へ誘いだす」
- ③「妻への愛と心づかいも忘れない」



NPO法人「イクメンクラブ」イクメン3か条より

イクメンとは、積極的に育児を行う男性。単に子育てしているだけではなく、主体的に子育てを行い、楽しみ、そしてママと子どもと一緒に家族を創っていく、覚悟と責任のある父親。

「イクメン」について男性はどう感じているのか？

(中央区の男性にアンケートを実施)

- 女性が社会進出をしている風潮は自然な流れだと思うので、男女平等の観点からも、男性が育児に関わることはすごく当然の成り行きだと思う。
- イクメンという言葉だけが先行していて、中身のない見せかけのファッションブルな部分だけがクローズアップされ、メディアで盛んに煽っているような気がします。
- イクメン自体は非常に良い取り組みだと感じます。しかし、ブームは「去ったり終わったりするもの」ですから、逆にブームで終わらせないような、地道で永続的な取り組みが必要なのだと思います。

賛成的な意見だけでなく、
批判的な声・慎重さを求める声も多い

男性の育児参加

- 男性の育児休業取得の割合… **2.65%**

(女性の割合…81.5%)

(厚生労働省 2015年度 雇用均等基本調査結果より)

⇒ **政府の掲げる『2020年 13%』の目標にはほど遠い**

- 男性の育児参加が進まないのはなぜか？

男性自身に育児参加への「**抵抗感**」がある

育児参加に積極的ではない**職場の雰囲気**



男性の子育て環境の実態は、依然として厳しい状況
多くの男性が悩みを抱えている

子どもは地域へのパスポート（入場券）

（ファザーリング・ジャパン九州 副代表理事 吉村伊織氏資料より）
（現・代表理事）

- ・ 子どもと一緒に地域のイベントに参加しやすい。
- ・ ほかに子ども達の様子を見ることで「地域での子育て」を意識できる

ファザーリングジャパンとは

「ファザーリング（父親であることを楽しもう）」の理解・浸透こそが、「よい父親」ではなく「笑っている父親」を増やし、それが働き方の見直し、企業の意識改革、社会不安の解消、次世代の育成に繋がり、10年後・20年後の日本社会に大きな変革をもたらすということを目的としてさまざまな事業を展開していく、NPO法人。各地でパパセミナーや講演会などを実施している。

パパ友達のすすめ

- ・ 子育てで悩む中で一番大事なケアは？
⇒悩みを分かち合うこと。共有すること。
- ・ パパ友の定義…父親であるという共通点を持った友達のこと。
（『NPO法人ファザーリング・ジャパン』より）
- ・ パパ友を作ることのメリット
家庭や仕事の悩みを相談できる・人間関係の幅が広がる

パパ友の作り方

- ・ 子どもが生まれる前・・・産院、両親学級などで
- ・ 子どもが生まれたら・・・公園、児童会館、地域センターなどで
- ・ 幼児期・就学時・・・父母会やPTA、スポーツクラブに参画

～「パパスクール城南」を見学しました～

『家族と自分に幸せ運ぶ 真のイクメンになろう』2015年11月8日
講師：ファザーリングジャパン九州 副代表理事 吉村伊織氏
（現・代表理事）

20代～40代のこれからパパになる男性や、子育て中のパパたちが参加していました。

託児コーナーを設けていたので、パパたちも安心して受講できていました。

吉村氏の育児についての体験談や、参加者同士の交流が行われ、パパたちの育児に対する熱い思いに圧倒されたパパスクールでした。

【インタビュー】 福岡市立中央児童会館 あいくる 「とんがり先生」 諫山 大輔 氏



あいくるとは…0歳からおおむね18歳未満の子どもたちの「遊び・体験・交流の場」として、子育て支援事業、乳幼児の一時預かり事業、幅広い年齢を対象とした、多彩なクラブ活動、季節のイベントなど、様々な催し物などを通じて、子どもたちの健全な育成を行う施設。

・ 児童会館はどのような方々が利用されているのか？

⇒平日の昼間は主に未就学児とその母親が多い。夕方からは小学生以上の年齢層の子どもたちが多く利用しています。また、夏休みなどは、遠方から帰省中の子どもたちも遊びにきてくれるそうです。

・ 男性（父親）の利用はありますか？

⇒増えています。特に土日などは多くみられる。

・ 「とんがり先生」の愛称について

⇒「とんがり先生」という愛称を子どもたちに使ってもらうことで、名前を憶えやすく、呼びやすく、また親しみやすくしているそうです。

・ 児童会館について

⇒子どもたちにのびのびと安心して遊んでもらえるように、楽しい雰囲気作りをこころがけているそうです。また、同年代の子どもたちの交流の場だけでなく、子育て世代の父親や母親たちが悩みを話せる場としても、ぜひ活用してほしいそうです。

愛称“あいくる”の意味・由来



愛称あいくる

様々な世代の子ども達がふれあい、遊び、学び、笑顔溢れる愛くるしい雰囲気のある施設でありたいという願いとともに、遊び友だちや一緒に活動する仲間、ママ友、施設のお兄さん、お姉さんに会いに来る場所になって欲しい思いから、「愛くる(しい雰囲気)」と「会い(に)来る(場所)」の2つの意味をあわせて、『あいくる』と名付けられました。

ロゴマーク

福岡市の「ふ」の文字をモチーフに、中央児童会館を利用する子どもたちの笑顔をイメージしています。中央児童会館での体験・ふれあいを通して成長していく、子どものはじける笑顔をわかりやすく表現しました。

男性の子育て

仕事と育児を両立させる上での男性の悩み

(中央区の男性にアンケートを実施)

①「時間がない」

- 仕事関係の付き合いがあるので、時間を作ることが難しい。(40代男性)
- 休日に、料理を作ろうと思うが、時間がかかってしまう。(40代男性)

②「職場に迷惑がかかってしまう」

- 子どもの音楽発表会などにも行ってみたいが、平日に休みを取ることができない。(30代男性)
- 子どもが病気のとくに、病院に連れて行けない。(30代男性)

③「子どものそばにいられない」

- 仕事から帰宅すると子どもが寝ているので寂しい。(30代男性)
- 子どもとふれあう機会がない。(40代男性)

仕事と育児の両立の難しさを感じている

「・子育てをしなければなじられ、やればやったで文句を言われることに不条理を感じる。

・家事、育児をやっているつもりで、妻からみたら全然できていないかもしれない…と心配になる時がある。」

「子育て情報サイト Conobie」より



男性はどのように対応しているのか??

- 自分ができるところを見つける
- 栄養のバランスを考えた食事作り
- 会社から帰宅してできることを探す
- 子どもの送迎
- おやし組や行事の参加
- 子どもとのコミュニケーション作り など



女性の子育て

仕事と育児を両立させる上での女性の悩み

(中央区の女性にアンケートを実施)

①「時間がない」

- 子育て・仕事・家事をするリズムが取れない。(30代女性)
- 子どもの習い事や送り迎えなどで時間が過ぎてしまう。(20代女性)

②「職場に迷惑がかかってしまう」

- 学校行事などで休みを取ると周りの人に迷惑をかけてしまう。(30代女性)
- 子どもの病気などで職場に迷惑をかけてしまうのが申し訳ない。(30代女性)

③「子どものそばにいられない」

- 授業参観などに出てあげられない。何かあった時にお迎えに行けない。
(30代女性)
- 子どもの成長をいつもそばでみてあげられない。(30代女性)

『妻への負担が大きい』 「共働きで子育てをしている方、秘訣を教えてください！
井戸端会議/お嫁さんな日々」より

「お互い助け合いは必要だと思いますが、旦那さんと同じように仕事をしてプラス育児も女性が優先でやるものだと思われているのは重荷ではないか！と考えるのは私だけですか？今ですらフルタイムで働き、家事をすることが凄く大変で旦那さんが帰ってきてくつろいでいる姿を見るとイライラする。」

女性が感じる負担感（困り感）は大きい



女性はどうのように対応しているのか？

- 料理の下ごしらえや作り置きをしておく
- 食材は配達を利用する
- 子どもが寝た後に家事を行う
- ママ友との情報共有



子育て家庭に必要なものは？



「家事・育児の役割分担」

男性・女性それぞれ、悩みや仕事の状況などは様々。
出来るときに、出来ることをする、という気持ちをお互いに持つことが
必要だと思います。

家事・育児の役割分担の例

- ・ 「入浴」… 最近は「浴育」の他に「パパ浴」「パパフロ」といった言葉も登場するなど、バスタイムは注目されている。リラックスでき、男性の育児参加のスタートとしては入りやすい。

- ・ 「子どもの送迎」…
フルタイム共働き家庭の約7割の夫が子どもの送迎をしており、父親が朝子どもを送ることで母親は出勤前の忙しい時間で効率よく家事を行うことができ、父親は子どもと接する時間が作れる。

- ・ 「料理の作り置き、下ごしらえ」…
仕事で疲れて子どものお迎えをし、帰宅。息つく暇なく、「おなかすいた」という声を聞くと、イライラする。ママたちは毎日いやになっています。料理のちょっとした協力で負担が減ります。

子育てを行う上で、子どものためにも夫婦のためにも
男女の協力は不可欠

夫婦間の「バランス」を保つことで育児にもいい影響を

これからの子育てについて

子育てをしていく中で、男性・女性の価値観は異なりますが、「お互いの理解と協力」そして「思いやり」は不可欠だと思います。

共働き家庭の増加、職場の理解など、子育てにとっては難しい状況も少なくない現状ですが、悩みを一人で抱え込まず、児童会館や地域行事、PTA活動に参加するなどして「パパ友」「ママ友」と悩みを共有したり、家事育児の工夫や役割分担をしながら、楽しい子育てを続けていきたいと思います。



活動を振り返って

☆調査や実際のお話を聞くことで、男女間での視点・考え方が異なることを再認識しました。その中で、現状の問題点に対し、今回学んだことを糧に、私に出来ることから少しずつ取り組んでいきたいと思います。



(小笠原)



(藤村)

☆子育てをするうえで、パパ友・ママ友の存在は、とても心強いと思いました。「イクメン」がブームではなく、子育てをするなかで、夫婦間の思いやりや親子の絆を深める形になることが、理想的だと思います。子どもたちは、五感で感じています。子育ての素晴らしさを次世代に繋げてもらえればと思います。

☆アンケートやインタビューなどを行うことで、様々な方々の考えに触れることができ、子育てについての認識が深まった気がします。男性・女性それぞれに悩みはありますが、夫婦間でのコミュニケーションや地域とより深くつながりを持つことで、少しでも子育てが楽しくなればよいなと思います。



(有村)

🌿 活動を終えて 🌿

「アクティブメイトになりませんか?!」という声かけに、それぞれの思いを持って集まった私たちが、関心のある3つのテーマに分かれ、活動を始めました。

日々変わっていく生活環境の中で、さまざまな視点から学ぶことが出来、インタビューやアンケートなどを通して地域の皆さんとも関わりながら、とても有意義な2年間を過ごすことが出来ました。

これからも、地域活動やボランティアなどに積極的に協力していきたいと思えます。



平成27・28年度
中央区女性地域アクティブメイト

平成27・28年度 中央区女性地域アクティブメイト活動報告書

平成29年3月

発行：中央区女性地域アクティブメイト（平成27・28年度）
（事務局 中央区役所企画振興課）

〒810-8622 福岡市中央区大名2丁目5番31号
TEL 092-718-1055
FAX 092-714-2141